

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所の理念は「家族のような暖かな雰囲気、信頼のおける健康、生活環境の中の笑顔あふれる人生を共に創造する。」と掲げている。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	常に玄関前廊下に掲示して何時でも、職員が見て意識し理念に基づいてサービスを提供する様に心がけている。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議の構成メンバーに町内会長及び民生委員等が加入してもらい事業所の理念及びサービス内容等を公表している。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣にあるコンビニは、買い物で利用している為、気軽に挨拶はしている。しかし、近くの住宅は少し離れている為、近所の住民との交流は今のところ出来ない。	○	施設で使用する牛乳及び卵等を頻りにコンビニで購入する事により、顔なじみになり入居者も気軽に行けるようにしている。今後、積極的に町内会の催しに参加し、交流する事で日常的なつきあいつながりたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の福祉施設の収穫祭等に継続的に参加している。又、町内会長及び民生委員に町内の催し物等の案内をお願いしている。	○	町内会長等から町内の行事の案内を頂いた時は出来る限り、参加していきたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内会長などを通して、介護などに関して相談があれば直ぐに取り組む事になっている。	○	入居希望に限らず介護などの相談が出来る事をPRしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎年、自己評価を行い質及びサービスの向上に努めている。外部評価の改善点は理解しているが一部改善しているだけで進んでいない。	○	まだ不足している質及びサービスの向上に努めたい。
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で、利用者の状況及びサービスの内容などを報告して話し合いの中で出た意見をサービスに活かしている。	○	運営推進会議等、外部の意見、評価を積極的に受け入れ、サービスの改善に取り組んでいきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	頻繁に市担当者と連絡を取り、情報の交換等を行っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	地域権利擁護事業や成年後見人制度の研修に参加し、人権擁護について取り組んでいる。又、入居者及び家族に情報等を提供している。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	各種勉強会・研修会等に参加し、学ぶ機会を設けており、虐待・身体拘束防止マニュアルを設置し職員がすぐ見れる状態にある。また 職員間でも注意をはらっている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には運営規程、重要事項説明書などを細かく説明し、納得を得て契約を結んでいる。解除時には、なるべく入居者の状態に合った最善の方法を説明し、この事も入居者及び家族に納得を得て退居している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時には契約書の第10条に記載されており、詳細については重要事項説明書第8条により説明しています。又、玄関横には苦情受付窓口を設置し、何時でも意見出来る様にしている。	○	毎日の会話の中での不満などを聞き出しているが、まだ 運営に反映させるまで至っていない。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者の日々の暮らしぶりや健康状態については、面会時には必ず報告している。体調の急変時には直ぐに連絡を取っている。又、職員の移動については面会の都度報告しているが、面会の少ない家族への連絡は定期的に行われていない。	○	面会の少ない家族への報告は定期的に行っていききたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時には契約書の第10条に記載されており、詳細については重要事項説明書第8条により説明しています。又、玄関横には苦情受付窓口を設置し、何時でも意見出来る様にしている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議及び職員会議を毎月1回は開催し、その意見や提案を随時聞いている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟に対応するため必要な時間帯には、必要な人数を配置されるよう努めている。	○	今後は勤務時間の見直し及び変更等を考えて行きたい。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の採用の場合は、利用者にはすぐに報告している。家族へは面会時に報告しているが、面会の少ない家族への連絡は出来ていない。また 退職時も同じである。	○	職員の退職・採用時はなるべく家族へは報告を入れるようにしたい、利用者については退職に限り状況を見ながら報告したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各研修会になるべく参加し、利用者へのサービス向上に努めている。	○	職員の育成に努めるため、管理者・計画作成担当者だけでなく、全職員が参加していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム協議会に加入し、勉強会などにも積極的に参加している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	退職した職員の補充は、なるべく早く補充している。また 職員のストレスを軽減するため、居室1室を休憩室にしている。その他ボウリング大会や忘年会などを開催し軽減を図っている。	○	職員のストレスを軽減させる工夫や環境の整備に取り組んでいきたい。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員の勤務状況等は、管理者から運営者に報告している。また 職員の業務内容の相談などは聞く体制を取っている。	○	職員の向上心を養うために環境の整備に取り組んでいきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用に至るまでに介護事業者から情報を収集し必ず訪問するようにしている。また本人から要望や意見を聞き精神的負担の軽減に努めている。なるべく入居前に施設の見学をお願いしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用に至るまでに介護事業者から情報を収集し必ず訪問するようにしている。また家族から要望や意見を聞き精神的負担の軽減に努めている。なるべく施設の見学をお願いしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントを行い直近の課題を抽出し、必要な支援を行っている。しかし、まだ支援内容の充実にはまだ至っていない。	○	初めてセンター方式のアセスメントを取り入れ、入居者本人のニーズと要望を把握してより一層ケアプラン及びアセスメントの充実を行って行きたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の生活歴、趣味、嗜好等を入所前に行われていた介護などを、考慮しながら工夫しており、なるべく本人に入所前に見学をして頂くようにして。また、入居時は1週間間は落ち着かない状況があるので、環境などをもう一度考え直す必要がある。	○	体験利用的な事も今後考えて行き、詳細なアセスメントを行い精神的負担を軽減させたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人とコミュニケーションを取りながら、お互いが理解しあい共に生活出来る関係が出来ているが、まだ、職員が一方的に献立や行事の計画をしているので、入居者の意見をたくさん取り入れて行きたい。	○	すべての日常生活に入居者を交えて、話し合いながら欠けているので今後は何事でも意見を聞いて行きたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族と共に本人の支援を検討し、状況が変化した時は随時報告、再度家族と共に検討する様に努めている。又、本人がよりよい生活を送れるように人間関係が築かれている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族と本人の過去の生活歴などを把握し、ケアに結びついている、特に入居時には誤解が生じないように配慮している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	家族や知人との面会を継続し、外出や外泊の支援を行っている。本人との会話の中で馴染みの人や場所を取り入れて支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者が何時でも利用できるホールでの日常的な交流がある。利用者同士の関係に配慮しお互い明るく生活して頂けるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了後も、家族と連絡は取っている。また 居宅支援事業所とも連携しながら間接的に関わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を基に暮らし方への要望等を把握するよう努め安心して生活出来るよう支援しているが、入居後新しい情報を得る事があるので、時間を掛けなければ行けない。	○	入居者本人の要望又家族などから沢山の情報を得て、センター方式のアセスメントの充実を図って行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や生活環境、病前性格、サービス利用の経過等アセスメントに十分な時間を取り支援を行っているが、まだ 足りない事が後から出てくる事があるので、もう少し時間を掛けなければならない。	○	センター方式のアセスメントを職員みんなで情報を家族および本人より聞き、新しい情報を得た都度どの様に実行して行くか考えて行きたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個別記録に一日の過ごし方を記入、心身状態の変化等を現状の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画の作成にあたっては、利用者・家族よりアセスメントを行い課題とケアの方向性を検討、その上で利用者、家族、各関係者と担当者会議を開き作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアプランに期した期間に応じた見直し、区分変更等状態の変化に応じた見直しを実施している。その際は、利用者・家族・関係者等による担当者会議を実施している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に記入、各職種が共有し状態の変化により介護計画の見直しを行っている。しかし、職員によって記録の表現が少し違う事があるので統一して行きたい。	○	個別記録の記入方法、要点の書き方を充実させていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者の趣味・嗜好に合わせボランティアと協力しながら屋外活動等を行っている。(民謡等)		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在、他のサービス活用支援は無いが、地域の介護事業者との情報交換は密に行っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて、地域包括支援センターと協働していく用意がある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけ医の往診、協力医療機関の馴染み看護師の派遣もあり、日常的健康管理を行っている。事業所にも看護師の資格を持っている介護職員が配置されており、利用者の健康相談を行っている。	○	日常の状態、特に休日の状態報告の確保・連携体制の見直し・病院受診の付き添い時の対応方法
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	心身の状況に応じ、協力医療機関への相談、早期の治療を受けられるよう支援している。	○	相談しやすい環境と連携体制を築いていきたい。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所に看護師の資格を持つ介護職員がおり、相談しながら健康管理を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は必ず職員が同行し、病院関係者と連携し安心して過ごせるよう努めている。また 病院相談員等及び居宅支援事業者と連絡を取り情報交換を行っている。	○	入院中から考える状態の変化の把握が出来る連携体制の強化。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	状態の変化時には、早急に主治医に報告し同時に家族連絡を取り、状態の報告を入れる。必要に応じて主治医と家族との面談の調整を行っている。	○	現在は無いが重度化、終末期のあり方について、要望があった時は各関係者と担当者会議を開き方針を共有していきたい。不安を早い時期に解決出来る援助方法、利用者本人及び家族へ必要以上の不安を与えない連絡方法。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	一部の家族からの意見のみに終わっているため、今後チームで取り組んでいきたい。	○	終末期の対応は無いが、今後の取り組みをして職員会議等で検討し、協力医療機関からの意見を伺いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>グループホームからの退居の際は、居宅支援事業所に生活環境、本人の要望等を連絡し住み替えによるダメージ防止を図っている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>声掛けは個々の尊厳を大切にし、個人情報の取扱いは渡り廊下部分で行うよう配慮している。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者の説明、希望の表出については十分な時間を取り、面接するよう努めている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>本人の生活ペースを日課表にし、個々の時間を尊重する。(入浴・食事等)</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>衣類は本人の趣味に合わせ、家族が購入している。身だしなみも本人の意向を尊重し支援している。外出できる方は、今まで利用していた美容室へ外出している。・定期的な、散髪、毛染め等のサービスの提供。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>事前に、利用者より好みの物について伺い1週間のメニューに反映している。食事の準備や片付けは一緒に行っている。個々の燕下能力に合わせた形状にしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつ等、本人の嗜好に合わせ、随時提供出来る様にしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	出来る限りオムツは使用せず、トイレでの排泄が出来るよう声掛け、誘導を行っている。その日の体調により、紙パンツを使用した際も同様に支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望により随時入浴を行っている。入浴が苦手な方については、タイミングを合わせ負担の無いように配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の時間を尊重し、自由に休息、安心して生活出来るように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の役割、楽しみ事を活かして気分転換が出来る様レク及び行事に取り入れている。生活歴等の情報より、洗濯や掃除など負担にならない程度の役割を見つけられる様支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人が管理できるだけの金銭を所持している。買い物を行った時は極力声掛け、見守りをし本人の意思で行えるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物や散歩等一人一人の希望に合わせて外出支援を行っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者の希望で外出の機会はあるが、特定の利用者に限られてしまう。	○	今後は買い物以外での外出を個別に行って行きたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	利用者の希望により本人が電話を掛けたり、家族からの電話を本人に繋ぐよう支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族等の面会時は、自室及びホールなど自由に過ごしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルを準備しケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関内戸はチャイムを設置し、開けた場合は鳴るようにしているが表玄関は、施設前などが車両の通行があるので施錠しているのが実態、。居室の施錠はしていない。	○	正面玄関は安全確保の為鍵を掛けているが、今後については検討して行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者の所在を把握し、居室に訪問する際は、ノックをする等プライバシーに配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	全ての物品を管理するのではなく、本人が管理できるものは個々の状態に応じ、管理している。行動障害のある方に対しての環境の整備、転倒のリスクがある方に対して、クッションの利用などの配慮をしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	考え得る事故や急変状態を学習し、的確な処置及び事故防止に取り組んでる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	開設時には、職員全員が救命救急講習を受講したが、現職員の内受講している職員が少ない。	○	なるべく早く、全職員の救命救急講習を受講させる。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時、緊急時のため連絡網を作成し、定期的な避難訓練を実施しており、地域への協力を依頼している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	支援経過を定期的に家族へ連絡(面会・電話)その都度、リスクについて説明し、自由に生活出来る様に話し合いをしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルチェックや表情、本人への声掛けにより、体調の変化を発見。ミーティング、申し送りにより全スタッフが共有出来ている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方内容を個別に保管し、服薬支援を行い症状が急変した場合は、藤崎整形外科クリニックの看護師と連絡して、対処する体制を取っている。	○	藤崎整形外科クリニックの看護師からアドバイスや処方箋の情報から全スタッフが薬について理解を深くする。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘予防の為、牛乳、繊維が多い物を食事に取り入れるよう工夫している。日常的に体を動かせる様日常生活動作は極力見守りとしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、利用者の状況に応じ声掛けや介助にて口腔内のケアで清潔を保持出来るよう支援しているが、入居者自身出来る方はまかせっきりの状態があるので、個々に支援を行って行きたい。。	○	毎食後の口腔ケアを必ず確認し合い職員が入居者へ支援して行く。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者個々の食事量、水分量に応じたバランスの取れた食事を提供している。利用者の状態等に応じ、摂取しやすいように工夫している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者全員のインフルエンザ予防接種の実行。施設内は加湿器の導入で乾燥を防ぎ、湿度を上げることによりウィルスの活動を止める。感染予防マニュアルにより、予防・対応に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材の保管、台所、調理器具(まな板・包丁・ふきん)等の消毒を行っている。食材は買い置きせず、食材の購入は頻繁に行くようにしている。今後も継続して行きたい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	施設玄関前には緩やかなスロープを設置し、建物と反対側にはガードレールが設置しており、手すりとしても利用できる。夏場には玄関周りにはプランターに花を植えスロープの行き来の際には目で楽しんでいる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間で居心地よく過ごして頂けるよう、不快な音や光に配慮しながら支援している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホール内にテレビ・ソファを設置し、利用者同士が交流出来る場、思い思い過ごせる場所の提供に努めている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は家族と相談しながら本人が使用して家具や使い慣れた物を準備して頂、心地よく過ごせるように努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室の喚起も協力して頂き定期的に行っている。施設内の温度調整は日々天気と気温によりこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	施設内は全てバリアフリーでローカ、浴室、トイレには手すりが設置してあり、出来るだけ自立した生活を送れるよう、環境整備に取り組んでいます。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者個々の状態を把握し混乱や失敗を防ぐ様に努め、出来る限り自立した生活が出きるよう支援しているが、落ち着く場所が自室の傾向があるので、その他の場所作りをして行きたい。	○	話し相手を増やし、落ち着いて過ごせる場所を確保出来る様に支援していきたい。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の玄関周りはプランターの中に花や、トマトなどのプランターのプチ菜園なるものを作って楽しんでいるが、職員のみが手を掛けている部分が多いので入居者の手を借りて栽培したい。	○	季節感のある花などを植えて窓からの季節感を取り入れたい、また野菜などを栽培し収穫するまで一緒に行って行きたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)